

## 消費者教育 実践事例集

# つくり手（生産者）と つかい手（消費者）をつなぐ －「こども消費生活サポーター」の活動－

静岡県藤枝市市民協働部消費生活センター

### 消費者教育推進のために

藤枝市では、自ら考え・行動できる自立した消費者の育成と、一人一人の消費行動が社会や環境に影響を与えることを自覚して、主体的かつ積極的に社会参画できる消費者の育成をめざし、小学生期から高齢期までの各年代に応じた体系的な消費者教育を推進しています。

その中で、小学生については、2016年度から「賢い消費者の卵育成事業」として5年生を対象に、将来、主体的に豊かな消費生活が送れるような価値観を育む授業を行ってきました。

この授業で学んだことを子どもたちが発信できる活動はないかと考えていたところ、社会的にSDGsの考え方が広まりました。当市では、SDGsの17のゴールに貢献する市独自の17の目標（ローカルSDGs）を設定し、その達成をめざしていますが、SDGsの「目標12 つくる責任 つかう責任」と、それに対応するローカルSDGsの「目標12 6 Rを推進し、廃棄物を削減する」の2つの目標にも寄与する事業として始めたのが、「こども消費生活サポーター」（以下、サポーター）事業です。

### サポーターの活動内容と目的

この事業は、2022年度から始まりました。市内の小学4年生から6年生を対象に公募し、サポーターに任命します。

サポーターは、持続可能な社会の実現に向けて活動している市内の生産者や事業者などの「つくり手」を訪問し、その思いを学び、「つかい手」として自分に何ができるのかを考え実践す

るとともに、家庭や学校などまわりの人々にもそのことを伝える活動を行います。

この活動を通じ、つくり手とつかい手をつなぐとともに、人や社会、地域、環境に配慮した消費行動への理解を深め、持続可能な社会を担う人材づくりを行うことを目的としています。

### 2023年度の活動内容－生産者訪問

2023年度は7月に任命式を行い、小学4年生5名、5年生1名、6年生2名の計8名をサポーターに任命しました。

子どもたちからは、「学校でSDGsを学ぶので、勉強したいと思った」や「昨年も参加して楽しかったので、昨年以上に頑張りたい」などの志望動機や抱負が語られました。

8月の活動では、有機農業で稲作を行っている生産者の水田を訪れ、米ぬかやおから、魚かすなどを発酵させた自家製肥料へのこだわりや、田んぼの起こし方で温室効果ガス（メタンガス）の発生を抑えることができるなどの話を聞きました（写真1）。サポーターは、おいしい米作りのための取り組みが、微生物に始まりさまざまな生き物が共存する豊かな田んぼ作りや、環境に配慮した行動につながることを学びました。

#### 写真1 水田を見学するサポーター



また、11月には、ヤギと羊を飼育し、ヤギ肉やミルクの生産や販売などを行っている生産者の牧場を訪問しました。良質なヤギを育てるため、餌の質にもこだわり、牧草を自ら育て、地元の酒蔵から廃棄される物として出た酒かすを与えるなど、環境に配慮した行動にもつながっていることを学ぶとともに、命をつなぐ大切さや、よりよい物を消費者へ届けようとする生産者の思いに触れることができました。

生産者訪問の後には、意見交換会を行い、サポーターそれぞれが感じたつくり手の思いや、つくり手に伝えたいことを発表し合い、訪問を通じて感じた消費者としての思いを「アクション宣言」として市のウェブサイトなどで発信しました。

#### ☆アクション宣言☆(抜粋) ～消費者としてのこれからの行動～

- ・安いものではなく、環境にいいもの、日本のものを買って地産地消したい
- ・自分がものを作る仕事についたら、お客様が安心できる工夫をしたい
- ・生産者の方に感謝の気持ちを込めて消費する
- ・つくり手の人の苦勞がムダにならないよう残さず食べたい

#### 活動内容の理解を深めるために

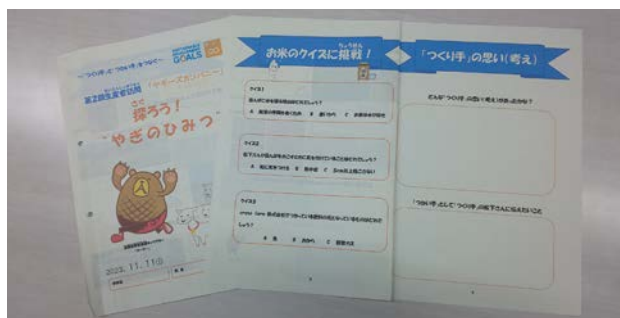
各訪問の前には、生産者に当日話してもらった内容から出題されたクイズや、聞いてもらいたいポイントをミッションとして記載したテキスト(写真2)を当センターの職員が作成し、サポーターに渡しています。

このテキストのおかげで、訪問する所について自分で事前に調べたり、生産者への質問を考えたりするなど、活動により興味を持って意欲的に取り組むことができました。

#### 消費者安心サポーターとの合同報告会

また、3月には2023年度の活動報告を消費

#### 写真2 訪問で使用するテキスト



者安心サポーターと合同で行いました。消費者安心サポーターとは、行政と協働で消費者教育活動や啓発活動を行う成人のサポーターです。消費者安心サポーターも、こども消費生活サポーターが8月に訪問した生産者を10月に訪問しました。

お互いの活動報告の後、消費者安心サポーターから「SDGsに自分がかかっていると思うことは?」という質問があり、「自分は有機茶を水筒で持参することで貢献していると思う」「給食を残さず食べる」といった、今回の活動をとおして持続可能な取り組みを心がけるようになったことが分かる意見が聞かれました。

#### 今後の展開

2024年度は、エシカル消費の推進をテーマに、フェアトレード商品を扱っている事業者と2023年度に訪問した有機農業で稲作を行っている生産者を訪問します。加えて、生産者の物作りの思いへの理解を深めるため、各家庭でバケツでの米作りに挑戦します。

本年度は、サポーターに14名の応募がありました。1年間の活動を通じて学んだことを広く発信してくれると期待しています。市内には17の小学校がありますが、すべての小学校で、この事業に参加してもらうことが目標です。サポーター経験者が増えていけば、もっと活動の内容が広がっていくものと考えます。そのために、子どもたちの気づきや思いにアプローチできる事業内容を考えていきたいと思ひます。